



大原やすお

福岡市議会議員《早良区》

自然と人が共生した都市である田園都市を目指しながら、これからも市政に取組んでいくことを改めて決意しています。

福岡市民の意識調査では「福岡市は住みやすい」の理由の一つに「自然災害が少ない」を挙げています。しかしながら近年の世界で頻発する異常気象からは何時どの地域で災害が起こるか分からないという状況です。今年七月、西日本を襲った豪雨は予想だにしない地域で大きな被害に見舞われ、福岡地方も五百ミリを超す雨が降り触発水雷の状況でした。さらに梅雨明け後の連日猛暑は今までの記録を塗り替えました。このような異常気象の要因は地球温暖化と言われており、昨年パリで原因となる二酸化炭素の削減目標を定めたパリ議定書が発表されました。快適さや便利さを追い求めてきた結果がこのような状況になったと思えます。問題はすべて国に任せておいて解決できるものではありません。市町村単位の行政また市民一人ひとりが事の重大さを認識し考えなくてはなりません。その解決策の一つに森林整備があげられます。私はこれまで森林の大切さを繰り返し議会などで訴えてきました。私たちの生命を支える最も重要な酸素や水を供給しているのが森林だからです。その大事な森林が全国的に荒廃しています。森林を正常に戻すためには木を植えて育て更に活用するというサイクルを確立する必要があります。このことで水の安定供給や災害防止など多面的な機能が発揮されるのです。



いあらし

大原 やすお

福岡を襲った豪雨 出された避難勧告や避難指示に

今年7月6・7日の豪雨は福岡市においても500mmを超える雨量で土砂崩れなど早良区南部を中心に被害が多発しました。雨足が激しくなるたびに避難勧告や避難指示がテレビや携帯電話から発せられました。その時、避難すべきか否か、どこに避難したらいいのか、どのように避難したらいいのかと色々迷われたのではないのでしょうか。調査によりますと避難警告での避難者はわずか3.6%だったそうです。避難所と思っていた公民館や学校が土砂災害指定地域にあって避難が出来なかったり、避難所が狭く収容人数が限られたり、また避難所に固定電話が無く連絡が取れないなど“避難所”にも幾つも問題がありました。高齢者や障がい者をだれが何処の避難所に誘導するのかなど避難行動だけでも様々な課題が見えてき

あなたはどのような行動をとりましたか

日頃から各家庭に配布されたハザードマップ(災害予想地図)をもとに、災害時にどのような行動をとるのかを家族、近所、地域の方々と話し合いをし確認し合うことがいかに大切かを感じました。これからも気候変動によって様々な災害が予想されるなか、私も災害時にいかに被害を最小限に留めるか行政としっかりと協議を重ねながら取り組んでいきたいと思っています。



水かさが増し濁流となった室見川中流域 (H30.7.7 撮影)

大丈夫！ 高齢者乗車券はなくなりません。

高齢者 交通用福祉乗車券について
高齢者の社会参加を促進し福祉の増進を図ることを目的に公共交通機関の乗車料金を助成するものです。70歳以上の高齢者19万4000人のうち7割を超える14万人に利用され皆様に大変喜ばれている制度です。それが廃止されるというう・わ・さが広まり署名活動も行われたようです。
自民党会派の6月議会での質問に対して、「現在、廃止・削減といった具体的な検討は行っておりません。」と明確な答弁がありました。
9月には忘れずに申請していただいで活動の輪、交流の輪を広げていただき元気にお過ごしいただきますようお願いしております。



いつも一番身近な議員を目指して活動中の大原議員。誠心誠意、即行動！
市政に対するご意見ご相談をお寄せください、小さなことでも誠心誠意対応させていただきます。
見かけられたときには、ぜひお声掛けください。ご来所もお待ちしております。

自由民主党 福岡市早良区第六支部 ご加入を募っています。

大原議員を支えていただく自民党党员を募集中です。会費 年間おひとり4000円、ご家族の方は2000円です。
皆様のお支えによって議員も市議として活躍させていただけます。よろしく願いいたします。お問い合わせは事務所まで。

今年も行きます バスハイク

大好評の寿々の会バスハイク。今年も10-11月に3回計画中です。お楽しみに！

ホームページリニューアル

この度、大原やすお後援会ホームページをリニューアルいたしました。スマートフォンからも見やすくなっております。新しく議会報告のページを設けました。議員の質問内容や答弁がご覧いただけます。ホームページへのご訪問お待ちしております。

後援会会長あいさつ



かつてない猛暑が続いていますが、皆様におかれましては変わりなくお過ごしのことと拝察申し上げます。平素より大原市議に対し格別のご支援・ご協力をいただき感謝致しております。皆様の力強いご支援により当選を果たした二期目も早いもので来春には選挙を迎えます。福岡市は現在、税収も政令都市で最も伸び率が高く「元気な都市」と言われています。しかし、数年後には人口減少と超高齢化社会を迎え財政的負担がさらに増え、市民生活に関係深い医療・福祉・教育・防災などにも様々な課題が山積しているようです。昨年の議会において空港問題の審議が深夜まで及んだことを思い出される方も多いと思います。市政に真摯に向き合うことはもちろん、議員のモットーである「誠心誠意、即行動！」を心がけ、身近な市民の声にも全力投球、地域からの「室見川公園のジョギングコースの整備」についての陳情にも早急に対処し実現、関係者から大変喜ばれています。大原議員は市・地域の広範な諸問題に全力で取り組み、三期目を目指し奮闘しています。何卒皆様方の引続きの力強いご支援をよろしくお願い申し上げます。



大原やすお後援会 会長 重松 森 雄

福岡市議会議員 大原やすお事務所

福岡市早良区次郎丸4丁目9-37 (サンラーク次郎丸)
TEL 092(863)9567
FAX 092(863)9568
mail info@oohara-yasuo.jp



※絆通信印刷費用の一部は政務活動費から出させて頂いております。

平成30年3月決算特別委員会

H.30.3.26

本市の林業施策と木材利用促進について



東京オリンピック新国立競技場

戦後、火災防止のため建築物への木材利用が抑制されたこともあり建設の主体は鉄とコンクリートになりました。木材も国土の7割が森林にも拘わらず安い輸入材に押され木材産業は低迷を続けています。そのため放置された森林は荒廃が進んでいます。

木材は燃えやすく強度もない建材と思われてきましたが、加工技術の進歩により木造耐火技術の開発やCLT(直行集成材)利用が進み鉄骨の代替材としても利用できるようになりました。人が多く集まる建物では心地よい空間づくりが求められています。木の良さが注目されるようになりました。

国は平成22年「公共建築物木材利用促進法」を施行し公共施設での木材利用が広がりつつあります。東京オリンピックの新国立競技場にも大量の木材が使われます。その中にはお隣の那珂川町産の木材も使用されることになっています。

そこで福岡市の木材利用促進について質問しました。

答弁 「福岡市内の公共建築物における木材利用の促進に関する方針」を策定し、低層公共建築物の積極的木造化に努めること、内装等の木質化、地域産材の可能な限りの使用を掲げ取り組んでいる。

ベジフルスタジアム(青果市場)の一部木質化、学校や公民館の可能な個所の木質化などに広がりを見せており、早良地域交流センター、青果市場跡地など計画段階からの働きかけを行っている。

国は戦後以来の林業改革として国土の7割を占める森林の荒廃を蘇生させる目的で、財源の確保のため「森林環境税」・「森林環境譲与税」、林業経営の大規模化を進めるための「森林バンク」を創設し森林の持つ多面的な機能を発揮させるための施策を進めています。

本市の3割以上を森林で占める福岡市としても、しっかりと森林施策に取り組んでいくべきだと思っています。



ふくおか木材フォーラムで木質化の部大賞に選ばれた福岡女子大学図書館



東京丸の内に「世界一高い木造ビル」2041年完成へ

高さ350m、地上70階
一般木造住宅8000棟分の木材利用
(木質建材:鉄骨材=9:1)

(住友林業構想)

「全国木材利用促進連盟」発足 H.30.4.12



大原議員 副会長に就任

「政令指定都市が木材の消費拡大することで森林がよみがえり、CO₂の削減・温暖化防止に貢献し大都市のヒートアイランド現象の抑制にも大きな効果が期待され、健康で快適な空間が提供できるだけでなく林業の復活、山間部の活性化に繋げる」全国20の政令指定都市の自民党議員が中心となって全国組織である木材利用促進連盟が発足し本格化しました。この会の副会長に就任した大原議員、福岡市を木材利用促進都市のモデルとなるよう奮闘しています。



平成30年6月議会

H.30.6.18

本市の観光戦略について

本市からの外国人入国者数は昨年、6年連続で過去最高を更新し298万人を突破しました。2020年の東京オリンピック控え観光産業は盛り上がりを見せています。観光は経済をけん引する重要な分野と期待され本市も観光産業に期待しています。

しかしながら、市民からは外国人観光客が増えることで交通渋滞を招いたり生活習慣の違いなどから、とまどいの声や、住みやすさの向上が感じられないとの声を耳にします。このように、本市の施策と市民との間には距離があるように感じられます。

市民の立場から本市の観光施策について質問を致しました。

問 クルーズ客船客による観光バスで交通渋滞が起きている、何らかの対策をとるべきではないのか。



答 「クルーズナビ」を活用した訪問先・訪問時間の分散化や公共用地を利用した乗降場、駐車場の確保などソフト・ハード面から取り組む。クルーズ客船関係者や警察等と連携を図りながら対策に取り組む。

問 宿泊施設不足により違法民泊が横行している、宿泊施設不足の施策と住民に不安を与える違法民泊の取締りを強化すべきではないのか。



答 宿泊施設は現在 25827 室、2 年後は 6000 室増える見込み。さらに宿泊施設需要に追いつくよう取り組む。違法民泊施設に対しては、新法で強化された指導権限を行使し、法令遵守を徹底、警察等の関係機関と連携し、これまで以上に対応を強化する。

問 小売店や商店街での外国人観光客の消費拡大についてどのような施策を行っているのか。



答 wi-fi等のハード整備事業、商店街における多言語マップやホームページの取組を支援。インバウンド消費の商店街への波及を図る。電子マネーやモバイル決済などのキャッシュレス決済の普及に努める。

問 都心部に偏りがちの観光、本市郊外の豊かな自然を生かした観光振興施策にも力を入れるべきではないか。



答 早良区南部の農村地域における四季折々の自然・食などを活かした「グリーンツーリズム」の商品化に向けて、地元事業者と連携しながら取り組んでいく。

問 本市には多くの大学・専門学校があるが、連携することで学生と外国人観光客とが関わりを持つことも必要ではないか。



答 学生がボランティアガイドと連携し観光案内を行ったり、留学生と共同でモニターツアーの実施や学生のインターンシップの受入れを行っている。

観光は経済的側面だけが強調されがちですが、外国人観光客と市民とが触れ合うことによって、お互いを理解し合い仲良くなることは平和への支えにもなります。そういう意味からも、観光は経済の発展と世界平和を両立させることができる素晴らしい産業だと考えられます。

本市は古代から大陸との交流を深めることで育まれた歴史や文化に加え、豊かな自然に囲まれた多くの観光資源が眠っており、観光拠点として更に発展の可能性を秘めた都市だと思っています。観光での諸問題を解決しながら市民が観光都市市民として自覚し誇りを持てるような都市になるように努めていきます。

大原やすおの
議会報告

